

平成26年9月5日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	地域福祉課 石見スタッフ	氏名	藤原 温子
派遣先 団体名	NPO法人 石見の家		
<p>1. 研修の日時</p> <p>平成26年7月8日(石見の家居宅介護支援事業所) 平成26年7月9日(デイホームまったり(地域密着型通所介護※認知症対応型) 平成26年7月16日(いろいろホームゆったり(小規模多機能型居宅介護)</p> <p>2. 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)</p> <p>【7月8日:石見の家居宅介護支援事業所】</p> <p>■和田理事長</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢者にはできるだけ地元で自分らしく暮らしてもらいたい。「ゆっくりゆっくり、待つて待つて、ともに感謝」し、利用者にはオーダーメイドのケアを心がけ、利用者・家族と共に楽しむことを方針としている。事業所内も広くし、なるべく利用者にゆっくり過ごしてもらう。・高齢者は家の中では「お留守番」させられることが多い。それを解消するためにも外出(美術館・お花見・飲食店・買い物※あくまでも機能訓練の位置付け)するようにしている。安全管理など職員の負担もあるため外出は敬遠する事業所も多いが、当法人は利用者に少しでも楽しんでもらいたいと思っている。・事業所で使用する食材・洗剤はできるだけ安心安全なものを使用。三重県の特別養護老人ホーム「わたらい」をモデルに数人の職員が1週間研修した。<ul style="list-style-type: none">お米…基本的に玄米を圧力釜で炊いて提供。野菜…「ゆったり(小規模多機能型居宅介護支援事業所)」で栽培もしている。味噌…本明味噌(江津市有福温泉町本明農産加工場で製産されている手作り味噌)水…浄水器(約150万円/台。「まったり」1台「ゆったり」2台)を設置。洗剤・石けん…EMを使用。ハイターは使用しない。(EM…乳酸菌、酵母、光合成細菌を主体とし、安全で有用な微生物を共生させた多目的微生物資材(通称EM菌)EMは職員で作っている。(米のとぎ汁・水(カルキ無し)黒糖を使用))・職員は一人でも多くの職員を雇用し、なるべく正規職員で雇用する。利用者に対してもなるべく1対1で対応できるようにしたい。・その他地域貢献を目的として当法人で購入する物はできるだけ地元企業を利用。・行政に依頼したいことは、日々の業務の記録を簡略化である。現場は忙しい、一方行政側からは実地指導等で記録記録と言われる。本来大切なのはサービスであるはずなのに記録に追われてしまっている。 <p>■石見の家居宅介護支援事業所</p> <p>居宅介護支援事業所の利用者は20名程度。7割は「まったり」の利用者。利用者の状</p>			

況もわかるので昼食は利用者と一緒に「まったり」でとっている。

柳原介護支援専門員に同行し利用者のモニタリングを行う。（以下のとおり）

（１）はまぼうふうデイサービスセンター訪問（浜田市）

利用者２名の利用状況を確認。（①80代男性…機器を使った機能訓練３種を行う。②80代女性…独居、現在有料老人ホーム入居中。年末には自宅に戻ることを目標に当デイサービスセンターで機能訓練を行う）

（２）自宅訪問（江津市、90歳女性）…独居で90歳になられるが、現在利用しているサービスは週３の訪問介護、週１の通所リハのみ。（介護保険外では配食サービス利用）とても元気で前向きな高齢者もいるということを知ってもらいたいということで紹介いただく。

（３）自宅訪問（江津市、夫婦（夫：95歳介護度４、妻：認知症）

夫は日中車椅子・ベッドでの生活。日常は酸素注入が必要。妻は認知症のため、日常生活にも支障をきたす上に夫の介護が十分にできない。このため普段は広島在住の娘さんが同居し介護する。夫婦二人のみの自宅での生活が困難であるが、夫の希望により自宅で暮らしている。娘さん不在時は、夫婦二人での生活はかなり不安のため施設入居に向けて調整中であるが、なかなか夫の理解を得られず対応困難ケースとなっている。

【7月9日：デイホームまったり】

当事業所で利用者と過ごす。（利用者とは会話・簡易介助・業務補助）

■1日の状況

利用者数9名（内男性2名）

※利用者の希望（「まったりで過ごすことがとても楽しい！」とのこと）により急遽1名追加となる。）

①朝礼②利用者送迎③水分補給④機能訓練（足し算ゲーム・歌詞埋め・タオルたたみ・コップ洗い・広告裏紙利用しメモ用紙作成）※利用者の心身の状況に合わせて事業所外へドライブ④昼食、口腔ケア⑤午睡（利用者に合わせて行うため、午睡時間は様々。午睡を取らない利用者もいる）⑥機能訓練（ことわざかるた・身体訓練（手足を使った体操）⑥ティータイム・休憩⑦送迎（17:30）

※利用中、職員1人が対応し順番で入浴介助を行う。

・利用者の意思を尊重と機能訓練も兼ねて、ティータイムのお茶は一律同じ物を提供せず選択式、昼食のメニューの一つはとりわけできるものを用意し利用者の意思を確認して提供する。

・利用者は利用中帰宅願望が生じる事も多々ある。利用者の個々の様子を的確に捉えてドライブに誘う、コップ洗いなど何か作業をしてもらうことにより、利用者の精神状態が少しでも安定するように配慮されている。そのためか、研修日の利用者は1日荒れることなく穏やかで利用者間のトラブルも無かった。

【7月16日：いろいろホームゆったり】

■高橋施設長（看護師）

・行政にはもっと現場を知ってもらいたい。介護現場は常に人材不足。人材不足のためショートステイは土日のみ対応している。職員も常に毎日利用者向き合っていると

モチベーションが下がってしまうこともある。いかに職員のモチベーションを維持できるかも考えて行かなければ良いサービスはできない。人材不足で有り職員数も余裕が無いが、休暇をとってリフレッシュしてもらうよう心がけている。

・私たちは常に利用者目線で何ができるかを考えてケアを行っている。とにかくゆっくり利用者のペースで我慢しないで過ごしてもらっている。食事も一斉に食べるのではなく、用意ができたら個々のペースでとってもらう。送迎も自宅→施設でなくてもよいと思っている。利用者が「〇〇に行きたい。〇〇をみたい」と言われれば寄り道する。利用者の意思を尊重する。利用者の中にはもしかしたら明日会えない人もいるかもしれない。できるだけ今を楽しんでもらいたい。利用者はやはり自宅で過ごしたい。その想いは強いが事業所に過ごしてもらっている。自宅のようにできるだけリラックスして過ごしてもらいたい。

・同じ事を何回も繰り返し発言する利用者も多い。それを解決する特効薬は無い。とにかく繰り返し聞く。そうすると1対1での対応になるので人手が不足する。逆に、声をほとんど発せ無い利用者もいる。話してもらえる利用者のニーズは受け止めやすいが、声なき利用者のニーズをどう把握するかが難しい。

・利用者には職員が気になる存在となってもらいたい。そうすると職員も利用者に大切にしてもらえる。介護だけでなく、まず人としてメンタルから関わる。職員の半分は素人であるが、経験がある職員よりも、感性豊かで利用者のニーズも把握しやすいメリットがある。日々失敗もある。しかし失敗も大切。経験しないとわからない。失敗してどうすれば良いかまず自分で考えさせる。

・食事でもできるだけ安全で良い物を提供する。特に水・塩にはこだわる。今まで何人もの人を看取ってきたが、良い物を体に取り入れれば、免疫力が向上し苦しまずに逝くことができるはず。

・島根県には医師が根付かない。特に石見部は顕著である。

■1日の状況

利用者 15名。

・「まったり」とは全く状況が異なり、利用者は個々のペースで過ごす。(TVを見る。施設内を歩く。別室でラジオを聞く。職員と会話する。機能訓練をかねてタオルたたみを個々で行うなど)

・利用者によっては、帰宅願望がでて何度も帰りたいたいという方もいらっしゃるが、入浴時間が待てず1時間程度職員へ催促する利用者もいる中、個々の意思を受け入れ聞く体制をとっている。

3. 研修の感想

わずか3日間であったが、介護現場を経験することで、現場の状況をごく一部ではあるが理解することができたと感じている。介護保険事業所等の実地指導をする職員として、書類のみの指導だけでなく、現場の状況をイメージし介護現場の職員の方とより身近な指導職員になれるよう今後生かしていきたい。

そして、当事業所の理事長を始め職員の方の高い志には非常に感銘を受けた。常に高齢者の目線でケアを行い、また高齢者が少しでも気持ちよく過ごしやすい環境を提供することを念頭に置きサービスを提供している。正直、当法人で研修を受講するまで、ここまで高齢者のことを考えてサービス提供しているとは全く想定していなかったため驚いた。好事例となるようなサービスを行っている法人は当法人だけではなく、多数あると思う。高い志はあるもののなかなか軌道に乗らない事業所もあるはずである。高齢者福祉サービスの向上のためにも、好事例の事業所のサービスの具体例などの情報提供を行う場が必要であると思う。

また、介護職員は不足しており、限られた職員では利用者の日々のケアに追われ、書類の整備が十分にできないという声があった。職員がケアに少しでも専念できるよう書類整備にあたって、実地指導をとおして日々の業務がしやすくなるような提案（簡易化・簡略化等）を少しでもしていきたい。

4. その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

よりよい行政サービスを行うために職員は現場に出向き、現場の方の生の声を聞く場を積極的に設けるべきであると当研修を受講して改めて感じた。今後もこういった場を設けて頂きたい。

(注)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。